

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時55分）

---

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかりやすく要領よく行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受け質疑を続けてください。

質疑は一括質疑と一問一答方式、どちらかを述べてから質疑に入ってください。

なお、本定例会において一般質問に対して、町長に反問権を付与してございます。

最後に、傍聴者の皆さんに申し上げます。議場内ではお静かにお願いをいたします。

---

◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君） 日程第6、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

---

◇ 藤 井 要 君

○議長（稲葉昭宏君） 通告順位1番、藤井要君。

（1番 藤井 要君 登壇）

○1番（藤井 要君） それでは、通告に従いまして、壇上より一般質問を行います。

時の経つのも早いもので、4月の議員選挙から1年を迎えようとしています。今回を含め4回の定例議会の一般質問に立たせていただきますが、立候補時の公約が果たせただろうか、一般質問の趣旨が住民の方にわかりやすく伝わったろうかと今も悩んでいます。

また、2年前に松崎に赴任した副町長がこの3月を以て県に帰られてしまいます。鋭い眼光を発している副町長のこれまでにない視点に接し、職員や住民意識に変化が出てきたように感じています。

近隣の町では河津町の人口減少に対応したまちづくり計画、西伊豆町の教育改革、ふるさと納税寄附金額10億円突破、南伊豆町前年総額の12倍の3億4500万円余りの寄附などの報道がされています。わが町も10月には美しい村フェスティバルが行われ、全国から多くの人たちが訪れますが、これらの行事を成功させ、近隣市町に負けることのないような地方創生戦略、町民総活躍社会を掲げ、地域の活性化を願うものであります。

それでは、最初にくらし・環境について質問します。伏倉細田の町営住宅についてであります。細田町営住宅は、昭和45年に5棟20住宅が建設されましたが、現在の入居は9軒です。4.5畳と6畳にバス・トイレ・キッチン付であります。築45年を経過し、外観を見ても耐震性がなされているのか疑問の状態であります。

町では、空き家対策、都会からの定住促進に対する問題を抱えていますので、独居者や高齢者の福祉対策、若者定住支援策、都会からのお試し移住期間用の住宅、津波災害時での安全な場所の確保などを考えて、古くなった町営住宅を解体し新たな町営住宅、住民福祉向上拠点づくりを行う考えはないか伺います。

次に、町内商店街の空き店舗対策について質問します。松崎商店街も全国の商店街と同じように少しずつ店舗が減り、シャッター通りになってきています。商工会や各種団体をはじめとしていろいろな対策を講じてきたと思いますが、この流れを止められないのが現状であると考えます。

最近では学生や若者の斬新な考えを取り入れて元気な商店街に生まれ変わった事例も出てきています。

町長は私有財産に立ち入るといふか、関わることを嫌いますが、私たちが住んでいるこの松崎を活性化するために権利者と積極的に交渉して、空き店舗対策に力を注いでいただきたい。松崎商工会会長をも務めた経験のある町長の今後の活性化方針、取り組みをお尋ねいたします。

次に、松崎町の総合戦略の策定について質問します。2015年の国勢調査速報値によりますと、伊豆全体市町では人口は減少し、松崎町では816人減少の6837人と前回費10.7パーセントの減少であります。

町長は第5次総合計画で流動人口を合わせた7000人のまちづくりを目標に掲げていますが、この数字を見た中で総合戦略策定が反映されているのでしょうか。先ほど触れましたが、お隣の河津町では2040年の人口5800人、2060年4700人に目標を設定し、総合戦略をまとめたと感じます。

松崎町では、昨年7月に策定支援業務を株式会社ぎょうせいに約700万円で委託し、住民や関係者の意見を広く聞き、各課での個別の施策をまとめ、委員会を経て2月に策定が完了とっております。3月4日の議会勉強会において、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が示されましたが、内容を見ますと「何々を図ります」「目指します」「取り組みます」「整備します」の言葉や生きがいがづくり、暮らしやすいまちづくりなどの言葉が多く、具体性に欠けてい

ると感じたのは私だけでしょうか。

町長の骨太な基本戦略をお聞かせ願います。

次に、道の駅花の三聖苑の有効利用計画の進捗状況について質問します。花の三聖苑については、伊豆地域における道の駅と連携した様ざまな地域資源を組み合わせる観光地の一体的なブランドづくりや情報発信の場にしていくのではないかと考えているところではありますが、未だに方針が見えてこないと感じています。三聖苑の未来を考える会はどうなったのでしょうか。3月6日には伊豆地域重点道の駅事業「食の祭典」が道の駅三聖苑で開催されましたが、町長の目にはどのように写ったのでしょうか。

地域の防災拠点としての役割等いろいろ構想はあると思いますのでお答えをお願いいたします。

次に、地域おこし協力隊について質問します。地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において地域外の人材を積極的に取り入れ、地域協力活動を行ってもらい、定住・定着を図ること、地域力の維持強化を図ることを目的にした制度と伺っています。全国的には1541人、当町には4名の方がいます。23年度より導入、28年度新たに2名を募集し6名となる予定ですが、この方たちの最長3年間の任期の中で、定住・定着するためにどのような支持、支援をしているのか。

また、協力隊員に対しどのような評価をしているのか伺います。

これにて壇上からの質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 藤井要議員の一般質問にお答えします。

1. 暮らし・環境整備について。①「町営住宅(伏倉字細田)は建築後45年余が経過し、5棟20住居中、現在の入居数は9軒で11軒が空き家ですが、老朽化状態からして新規入居の募集をしていません。空き家対策が進まないなか、都会からの定住促進や若者支援、地震津波災害などを考慮して、町営住宅を建替える予定はないか」についてでございます。

町営細田住宅は建築後45年経過し、老朽化が著しいため、現在は新規の入居募集は行わず、入居中の方の転居を待っている状況です。更に、もう一つの町営住宅である小坂住宅に空きが出ましたら、細田住宅入居者の皆さんには広報とは別に入居募集案内状を送り、転居の機会を促しています。

ご質問の町営住宅建替え計画は今の所ありませんが、今後、現細田住宅が完全に空いた時には、町営住宅建設を含めた町有地の有効利用を検討していくことになると思います。

②「松崎町内の商店街も人口減少や後継者難等で空き店舗が多くなっているが、空き店舗を利用し、町の活性化に取り組む行政の姿勢が希薄に見える。どのような対策を取っているのか」

についてです。

商店街は、経営者の高齢化や後継者不足に加えて、大型スーパー、コンビニエンスストアの進出のほか、車社会の進展やインターネット販売の普及をはじめとした消費者の買物行動の多様化など社会経済環境の変化により商店数が減少し、空き店舗や空き地が増加しております。

平成26年の商業統計によると町内の商店数は、130店舗で、平成19年の166店舗と比較して36店舗と大幅な減少となっております。

町では、昨年、地域消費喚起事業補助金として商工会にプレミアム商品券4800万円分の発行事業を実施いただくとともに、ロマンシール協同組合によるスタンプ事業や歳末売出しセールなどを通して、町内商店の利活用、消費拡大を図ってきました。

現在、町では、東区の空き店舗をまちづくりの拠点オフィスや外部人材にワーキングスペースとして貸し出すシェアオフィスとして活用を図るべく整備を進めています。

また、商工会においても経営開発支援計画を策定し、創業者の育成や事業承継・再生支援を行うとともに、俳句交流館をチャレンジショップなどの体験の場として活用すること、空き店舗の情報を提供し、賑わいづくりを創出することとしております。

今後も空き店舗対策をはじめ商業振興につきましては、商工会と連携を密にして取り組んでまいりたいと考えております。

2. 松崎町の総合戦略の策定と取組について。①「地方版総合戦略については、平成28年3月までに策定を終えることになっている。町では株式会社ぎょうせいに策定支援を委託し、2月末までに完了させる予定であると言っているが、完了したのか。総合戦略の策定内容とそれをどのように推進していくのか」についてです。

地方版総合戦略につきましては、7月に策定支援業務を株式会社ぎょうせいに委託し、結婚・出産・子育てに関する調査や転出・転入者への意識調査、中学生・高校生を対象とした進学・就職に関する調査を実施するとともに観光協会や商工会、子育て世代へのヒアリング、庁内戦略会議や日本で最も美しい村推進委員会を開催し、策定を進めてまいりました。

去る、2月25日に委員会で総合戦略案を提案するとともに、3月4日の議員会勉強会において、議員の皆様はその概要を説明させていただいたところでございます。

総合戦略では、町に住む人々が暮らしやすく、活動しやすいまちづくりに向け、安全性、利便性、快適性を備えた環境整備などへの取り組みを通して魅力あるまちづくりを進めていくこととし、基本理念を「松崎に暮らすひとびとの喜びが多くの人々を誘うまちづくり」とさせていただきます。

戦略では、環境・文化の循環、ひと・経済の循環（安定した雇用の創出とひとの流れ）、子育て・教育の循環（結婚・出産・子育てで希望の実現）、健康長寿・安心社会の循環（安心して過ごせるまちづくりと地域間連携）の4つの循環を回し、未来（あした）への循環軌道を確認し、「松崎町日本で最も美しい村づくり推進委員会」を中心に事業の着実な推進を図るとともに、住民協働を戦略推進上の不可欠な視点とし、町民が一丸となって取り組み、最小の経費で最大の効果を上げてまいります。

3. 地方創生への取り組みについて。①「道の駅花の三聖苑有効利用事業計画はどの程度ま

で進んでいるのか」についてです。

道の駅花の三聖苑は、昨年2月に伊豆半島内8つの道の駅で伊豆道の駅ネットワークを構成し、国の重点道の駅35箇所のうちの一つに選定されました。

現在、全体計画では、道の駅を起点に地域の多様な観光情報を一体的に発信するため、インターネットの活用やチラシ、リーフレットを作成、配布するとともに、インバウンド対応として、窓口職員の研修を実施しております。今後も、道の駅が連携して事業を展開し、伊豆半島圏域の周遊観光の促進や観光競争力を強化してまいりたいと考えております。

また、道の駅花の三聖苑の個別計画では、施設全体の再整備で基礎機能を充実させるとともに、外国語標記や外国人対応の環境整備に取り組むことになっております。

花の三聖苑の整備につきましては、道の駅花の三聖苑の未来を考える会の皆様と昨年5月と10月の2回に会議を開催し、現状と課題、今後のあり方、産業振興などについて意見を交換をさせていただいたところであり、今後も会議を重ね、道の駅花の三聖苑の将来像を描き、既存施設の中でもできることは何か、施設整備が必要なものは何かを考えながら、平成28年度の再整備計画策定につなげていきたいと考えております。

②「国は、地方への人材移住促進を促進するため地域おこし協力隊を拡充するとしています。わが町にも現在4名の協力隊員が棚田やなまこ壁の維持保全に取り組んでいます。28年度に新たに2名の隊員を受け入れるとのことですが、隊員にどのような指示・指令を与えるのか。また最初の受け入れから3年余りが経過しているが、地域おこし事業に対し、どのような評価をしているのか」についてです。

町では、平成23年度に静岡県で初めて地域おこし協力隊員1名を採用し、3年間石部棚田の農作業の支援、棚田でのイベントの実施、地域おこしの支援などを行ってきました。

平成26年度、平成27年度には年度毎に隊員2名ずつを採用し、現在4名体制で石部棚田の保全活動、「日本で最も美しい村」連合加盟によるまちづくりやグリーンツーリズム活動、スポーツツーリズム推進、映像による町のPR活動を行っております。

2月15日の議会全員協議会でも説明をさせていただきましたが、平成28年度は、地域産業の振興や技術文化の継承、新しい仕事の創出・人材不足の業種の人材育成などの業務に、新たに隊員を2名募集し、3月7日の面接を経て、2名の採用を決定し、新年度は6名体制で進めていくこととしています。

地域おこし協力隊制度は、人口減少が進む当町において都市部の住民の移住促進と地域の担い手確保の上からも重要な施策であり、当然のことながら町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にも示されております。

平成27年度で5年が経過いたしますが、平成23年度に採用した地域おこし協力隊OBは今も石部地区に残り、棚田の作業やイベントなどにも引き続き協力をしております。

また、現在の地域おこし協力隊もなまこ壁の保存、移住・交流促進や放棄果樹対策など地域課題解決の事業や新たな産業の可能性を探る事業を進めるとともに、地域コミュニティの一員として大いに貢献していると認識しております。

○1番（藤井 要君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○1番（藤井 要君） いま町長の答弁がありましたけれども、これは23年度からやっているわけですが、23年度1名、そうすると3年間、もうOBがいるということで、その方はずっといるということですね。24年、25年がなかったと、採用しなかったということになるわけですね。

ごめんなさい、町営住宅の方でしたね。

町営住宅の関係ですと、いま松崎町には何世帯分あって、何世帯が住んでいるのか。

それから、最低賃金、最高賃金、所得によって違いますけれども、わかりましたらお答えをお願いしたいと思います。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 現在の入居状況、それから入居費というご質問でよろしいですね。

入居状況ですが、問題の細田住宅でございますが、議員のご質問のとおり20戸あるうち入居は9戸ございまして、当然のことながら入居の新規募集は行っておりません。

それから、小坂住宅につきましては22戸ございまして、現在満室ございまして、今のところ入居の待機者はございません。

それから家賃につきましては、それぞれの所得の状況に応じて段階的に1万円とか2万円とか3万円、細かいデータはございませんが、その程度だということでご理解いただきたいと申します。

○5番（藤井 要君） 22戸ということで、いま待機もないということですので、これは新しく入居ということはできませんけれども、細田住宅は・・・、町長、行ったことはありますか。行ったことありますよね。トイレとか、先ほど言いましたけれども、4畳半、6畳、私はあそこに入らせてもらいましたけれども、もう築45年も経っているということで、あれは耐震性もないんじゃないですか。耐震工事とかはやったという記憶も見た覚えもないですけれども、その辺はどうなっていますか。

町に対しては、よく個人のところに耐震性はどうか、無料耐震診断を行いますなんて聞いていますけれど、細田住宅に対してはどうでしょうか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 申し訳ございませんが、耐震の補強等は行っておりません。

（藤井議員「トイレは・・・」と呼ぶ）

○産業建設課長（斉藤昌幸君） トイレの改修も行っておりません。

○5番（藤井 要君） それでは、あそこに安心・安全な町なんて言っているけども、町営住宅に対

しては何もやらない、トイレも45年前ですから昔の和式のくみ取りですよ。

どうでしょうか、その点は改良にもかなりのお金がかかるということもわかりますけれども、先ほど私が言いましたように、あそこは浸水区域ではありませんよね。そうした場合に、先ほど言っているように若者の定住とか、いま空き家がありませんということでもよそから来てもなかなかここでお試し期間ということもできない状態。そういうことを考えると、あそこを建替えてそういう福祉とかそういう拠点なんかにはできないものかと、そういうことも考えられると思うんですよ。じゃあ、あそこを撤去するまで、いま9軒入っているわけですよ。その中で、じゃあ、出ていくまで待っているんだと10年かかるか20年かかるかわからない、トイレも旧式のまま、そして耐震性もない。台風とかああいうのがくれば屋根が飛んでいくような状況であるというようなことを考えると、もっと・・・、あんまり言葉も変なのになると困りますけれど、もっとレベルアップした住宅にしてあげることができないでしょうかね、町長。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど壇上でお答えしたとおり、入居中の転居を待っているという状態ですので、町としてはあれこれ言えませんので、待っていると壇上で答えたとおりでございます。

○5番（藤井 要君） なぜそこに住んでいる人は入居の状態を待っているか。出て行くのを待っているということですが、じゃあ、どんどん、どんどんだめになるだけじゃないですか、町長。

ですから私は、安心・安全な町とか福祉向上ということを謳っているわけですので、そこら辺を考えて、もう入居者の待ちがない状態ですよと言っているけれども、募集はあるにはあるんでしょうけれども、空いた時に募集するだけです。ですから、待ちがない、入居待ちがないということじゃないですか。

町長、本当に45年経って、トイレも昔のまま、4畳半、6畳・・・、子育てもありました・・・、今はだいたいもうあそこに入っている方は子育てが済んだ方たちが入っているんですけどもね。独居老人とか、そういう方たちがああいう集まる場所とか、そういう面を考えたら生活面をレベルアップするということでもやっぱり考える必要があると思いますけれども、ここで断言するのは、町長は入居者が撤退していくのを待つだけだと、本当にそれでいいんですか、町長。

○町長（齋藤文彦君） いま壇上で答えたとおりで、本当は・・・、こういうことを言ってはあれですけども、アパートとか何とかというのは本当は民営に任せるべきだなと私は思っているところでございます。

○5番（藤井 要君） じゃあ、町長、民営・・・、アパートを任せるということでしたけれども、それじゃあ、例えばアパートが5万円だったら、簡単に5000円でどうかといたら、その間の差額を町が補てんするということでもいいんですか。

○町長（齋藤文彦君） アパートの経営とかというのは、本当は官営でやることじゃなくて、私は民営でやるのが一番いいのかなと思っているところでございます。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 確かに老朽化しておりまして、補修の方もなかなか費用対効果の面もありまして、さまざまな検討をしなければならないと思います。議員の言ったとおり仮にいま現在入所している方が、アパートに移った場合に家賃の差額の助成というようなご質問でございますけれども、これについては制度的な問題等もあるものですから、なかなか一概には言えないかと思うわけでございます。

いずれにしても、一刻も早く、申し訳ございませんが、小坂住宅が空きが出た場合にはそちらの方に応募していただけるように促しているという町長の回答のとおりでございます。

○5番（藤井 要君） 時間の配分もありますので、あまり質問は深くはできませんけれども、先ほども言ったように町長、10年、20年そのままの状態ではできないと思いますよ。

ですから、先ほども言ったように、若者支援のための新しい建物を建てて、そこに若者を入れて定住してもらおう。本来でしたら、3世代住宅みたいに1軒の中で住むのが一番ですよ。でも、今はなかなかそういうことができない状態の中、新築してやってそこに住ませる。それで先ほど言った都会からのお試し期間、1週間とかそういう中で、空きがないわけじゃないですか。そういうことも考えて、そして先ほど言った安心・安全な・・・、津波浸水区域ではないということも考えながらやってもらいたいということをお願いして次の質問に入らせていただきます。

商店街のシャッター通りの関係でございます。観光協会とか商工会も一生懸命シャッター通りがなくなるようにということをやってきたと思います。でも、やっぱり結果が出ていないですよ。先ほど言いましたけれども、町長だって商工会のトップとして何年間も会長としてやってきたんですよ。今の現状を見て、どう憂いていますか。町長の考えを・・・。

○町長（齋藤文彦君） どう憂いているといいますか、本当に松崎の商店街を見ていて、本当に寂しくなったなと思っています。松崎の商店街も本当に努力して、松崎の町民の皆さんが買えるもの、また観光客の皆さんが買えるような努力をしなければいかんと思うわけですが、いろいろな努力をしているのはわかるわけですが、なかなかそれがうまくいかないということで、やっぱりどうしても地方にあります大型店舗とか何とかに皆さんが買いに行くよう



な状態で非常に商店街としては厳しいのかなと思っています。

それから、やっぱり本当にこの商店街を良くするには松崎町に来なければ買えないよというようにやっていかなければいかんと思うわけです。

ただ、私が、ある友達の下田の人を話をしている、「下田の方から松崎に来ることはある」と聞いたら「結構松崎に行きますよ」というような話がございまして、それは何でかといったら、「ボウリング場とダイソーとうまい店があるから」ということですので、そのようなことを考えて、やっぱり松崎町も特徴のある商店街を作っていかなければいかんと思っているところでございます。

○5番（藤井 要君） 松崎町の特徴のある商店街と町長は言いましたけれども、じゃあ、町長はどんな考えでありますか。特徴のある商店街・・・ちょっと待ってください。

私は、これは自分の考えの中で、確かに後継者等もなくっていますよね。休みというか、皆さんもそうでしょうけれども、土曜日曜とか休みになると沼津の方とか、やっぱり出ちゃいますよね。なかなか町の中では買わない。町の中でも土曜日曜になるとお客さんが反対にいつもよりも来ないと、ですからシャッターを閉めた、そういうことも聞いております。私は、町の文化財でまちおこしということを考えているんですよ。町の中にはいろいろな・・・例えば、どこどこには昔から江戸時代の回しがあるよとか、あそこの家には江戸時代からの巻物があるよとか掛け軸があるよとか。そういうのをいろいろ商店街の空き店舗を開けてもらって、そこでレプリカでも何でもコピーでもいいですけども、そこで展示する。それによって例えばここを見て、「こういうのがお寺にあるんですか、じゃあ、そこのお寺に行ってみましょう」とか、そういうのができないのか。

それと、小中学生が絵を描いたりしますよね。観光協会とかで展示します。そういうのを展示するとか、そういう町にできないのかなと思っているんですよ。そういうことによって町民も見るともしれませんし、普通の観光客のバスで長八のあそこに降りた方たちが回ってきた中で賑わいができるんじゃないかと私は思うんですけども。町長、私の今の考えはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） いろいろなことを考えているわけですけども。いま特産品館がありますけれども、あそこは健康マルシェでやって、本当にたくさんの老人の方が集まって来て非常にいいことをやっていると思うわけですから、それに合わせてアンテナショップというのをやってみたいなど、今やっています。

それで、松崎町でもいろいろなアクセサリを作ったり、小物を作ったり、クラフトを作っ

たり、海藻おしばとか何とかいろいろ作っている人がいるわけですがけれども、その人たちがアンテナショップでこれくらいやったらこれくらいのお客さんが来るよとお試し期間みたいなものを計画してまして、それをやりたいなと思っています。

ただ、松崎町はスケッチの町宣言をしてずっとやっていて、子どもたちのスケッチも商店街に飾っていますよ、毎年。

○5番（藤井 要君） どこに飾っていますか、町長。それは観光協会の中に飾ったりとか、そして、足湯の中瀬邸でしたか、そこら辺に飾ったりとか・・・私が言っているのは商店街を活性化させるために、商店街の持ち主さんと交渉して、そこを借りたりしたらどうでしょうかと言っているんですよ。ただ飾ってあるんじゃないでなくて、一年中飾ることができるじゃないですか。四季折々に例えば子どもたちいろいろ絵を描いたものとか、彫刻を作った、そういうのを飾ったらどうかということ言っているんですよ。もう一度。

○企画観光課長（山本 公君） 商店街の活用の中で、その絵の展示ということは確かにいいことでありまして、実際に商工会の方で「ぴか展」ということで、ぼくらの町が美術館みたいな形の中で1店舗に2枚くらいでしたかね、展示をさせていただきます。ショーウィンドウの所なんかに置いたり、あとはイーゼルに立てて飾っているというような状況がございます。年間を通じて一年中飾ってあるという状況ではないものですから、そのあたりは商工会の方とも相談をしながら、飾って見ていただけるということであれば、またお客さんの回遊性が増すことになると認識しております。

藤井議員のおっしゃられますように、ぐるっと回る仕組みをやっぱり作っていかねばならないかなということもありますし、また商店としても個別の地元の方だけではなくて、外に向けた商品開発みたいなもの、例えば、川のりコロッケなんかもあったりします。そういうものもありますので、個店個店のやはり特徴を持った商品販売なんかも必要になってくるのかなとは認識しております。

○5番（藤井 要君） いま課長の方、店舗に2つくらいずつ飾ってあるということですがけれども、なかなかそこに行かなければできないわけですがけれども、例えば、そのシャッターを開けてもらって1店舗の中に10、20とか飾ってあるのでは全然違うと思うんですよ。ですから、そういうことを町長、本気度をもってやってくださいよ。

町長は、松崎の文化財の関係なんかもそうですけれども、なまこ壁もそうですけれども、あそこところは私有財産だからなかなか町が交渉することができないなんて言いますけれども、そんなことは言ってもらえないと思いますよ。頭を下げる時は頭を下げて、課長たちが行く

のかわかりませんが、そういう町民との協力をしっかりやってくださいよ。そうしないと、本当にさびれていく町になると思いますよ。

それで、先ほど言いましたように、例えば、名前を出してもこれは怒られないと思いますけれども、泉屋さんとか、ああいうところに掛け軸があったりとか、ひな人形があったりとか、いろいろあるわけじゃないですか、そういうのを飾らせてもらう、町のためにだったら協力いたしますよということを言っているんですよ。そういう町の財産、文化財でまちおこし、それをいろいろ展示したりすることによって誘客する、交流人口を増やすということで活性化・・・、そうすれば雇用だって増えてくるんじゃないですか。

私は、これはちょっと飛んじやうかもしれませんけれども、地域おこし協力隊なんかもそういう中で、そういう人たちが今度は6人に増えれば、そういう方たちがそういう店舗に入ってやったっていいと思うんですよ。そこで作ったものを売ったりとか、そういう点も今度また次のあれでやりますけれども、やっぱり考えてくださいよ、町長。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ作品を展示するところは民間でもいっぱいやっているわけで、佐助さんとか丸平さんとか、それぞれ展示会場にして、私も何回も通って素晴らしい作品があるわけですが、そのような形を今度は特産品館を使って新規の人たちがやろうかといってやっているわけでございまして、これは役場が何もかも空き店舗全部をやるわけにはいきませんので、商工会とうまく連携しながらやっていきたいと思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。固有名詞はいい方向での議論の場合には固有名詞は出して結構です。

○5番（藤井 要君） そういうことですね、町長。一生懸命私らももちろんがんばります。ですから町の文化財を有効活用しましょうよ。そういうことで次の質問に入らせていただきますけれども・・・。

○町長（齋藤文彦君） 藤井議員もいろいろアイディアマンで、いろいろいいアイディアがあった時には、こういう一般質問ではなくて、私のところへ「こうやったらどうだろうか」と「こういうのが使えますよ」というようなことはぜひお願いしたいと思うわけでございます。

○5番（藤井 要君） 次の総合戦略について伺います。3月4日にも説明がある程度あったわけですが、これは先ほど冒頭でも言いましたけれども、株式会社ぎょうせいに700万円くらいですか、それは全てじゃないでしょうけれども、使って今回のこういうのを作ったわけですね。

そして、家に帰って読ませてもらったら・・・、冒頭でも言いましたように、あれですけれど

も、努めますだとか何々だとか、そういうことばかりで町長が本当に具体的な・・・、あれをどこに持っていても、日本全国に持っていても通用するような冊子ですよ。泥臭いかもしれませんけれども、町長、松崎町はこれをやるんだと・・・、株式会社ぎょうせいの方たちはその全体的な総枠は作れるかもしれないですけど、町に住んだこともないわけですよ。町のよさはそんなにわからないと思うんですよ。

ですから、そういう点が私は欠けていたんじゃないかと思うんですよ。町長、ここで一発これをかまして松崎を元気にしたいというような骨太の方針と先ほど言いましたけれども、一つ二つ案がありましたらここで発表できないですか。

○町長（齋藤文彦君） 総合戦略とか何とかと言いましても、やっぱりそれは松崎をいかにして活性させるかということですので、それは地域で経済性をもたらす個性化だと私は思っています。

それで、松崎町がいかにほかの地域と比べて違っているかと、松崎町はいろいろ特徴があるよということを明確にしなければいかんと私は思っているところでございます。

それで、今度の総合戦略も予算編成の中でも入っていますけれども、やっぱり松崎町を元気にするにはどうしたらいいかということで、やっぱり産業振興とそして社会保障の2本柱がこの総合戦略の中に入っていますので、私はその産業振興の中に2つありまして、ものづくりとひとづくり、もう一つはまちづくりとものづくり、社会保障の中では、健康長寿と子育て支援、この4つを中心にまちづくりを進めていくということでやっているわけです。

この総合戦略の中にも2億6000万円入っていますけれども、本当は総合戦略はできあがって、それに今年度の予算を付ければ最高なんですけれども、予算を作りながら総合戦略を作っていたということで、本当に同時に進行形で、本当に迫力のある予算ができなかったのかなというようなところがあるわけですが、総合戦略に対しても2億6000万円の金を付けていますし、それなりにやっていると思うところでございますけれど。

○5番（藤井 要君） 町長、今の言っていることもわかりますので、本当に町の特徴をもった、そして総合的じゃなくて、やっぱり1本町民にもわかりやすい「ああ、こういうことが町は変わってきているな」ということを早急にお示しできるようにがんばってもらいたいと思います。

次に、道の駅の三聖苑の関係、花の三聖苑の関係ですけれども、3月4日でしたか、この前。3月6日ですか。私も見て来ましたけれども、8つの伊豆半島の・・・くるくる順番で回るということで良くなってきているなど、それなりに賑わいも出てきたのかなということですけど

も、中に入っている人の意見を聞いても「何をやっているのか」「次の会議はいつなのか、全然わからないよ」というような意見も出ているんですよ。

ですから、先ほどやっぱり「町の方針としてはこうだ」と、「道の駅はこういうふうにしていきたいんだ」ということをもっと強く出していってもらいたいと思うんですよ。ここにもありますよ。先ほど、町長と同じようなやつかな、これは。地域外から活力をよぶゲイトウェイ型、インバウンド観光、観光総合窓口だとかいろいろ書いてありますけれども、もっと細かく具体的にやっぱりそういうのを示した方がわかりやすいじゃないですか、人間って。そういうのをよっぽどインパクトがあると思うんですよ。ですから、やってもらいたい。

それに対して、今こういう案があるんだよということをお示し願えないですか。

○町長（齋藤文彦君） 私は、先週の日曜日でしたか、食の祭典が賑わったのを見ていて、あれがある程度の理想型だなと私は思っています。

今、依田邸の関係もありまして、計画がなかなか進まないところがあるわけですが、私は東日本大震災が起きて地籍がちゃんとしていないと本当に町が再興できないよということで、地籍をやろうということで2年前からですか、地籍をスタートして、その地籍が進んでくると本当に鮎川みたいな・・・、南郷の鮎川みたいなそれぞれの計画が目に見えてきますので、あの辺も地盤整備をして、基盤整備をして土地を集約して畑地にして、あの道の駅で本当に南伊豆の交流館みたいに元気になればいいなと考えています。

それに、松崎町は、依田邸が非常に難しいところがあるわけですが、依田邸と三聖苑がくっつくとこれはすごいことになると思いますので、それを皆さんの目の前に、すぐ目の前に見せられないのがちょっとさびしいわけですが、三聖苑はこういうふうになるよというのを近い将来早く見つけたいなと思っています。

○5番（藤井 要君） いま町長から力強いお言葉をいただきましたけれども、皆さんに目に見えるように、例えば、絵を描いて町民なんか「何年後にはこういうふうになるんだ」と、こういう文書だけだとわかりづらいですから、そういう面では町民にもやる気をおこす、やる気をおこしてバックアップしてもらおうという意味で大いにそういうのをやってもらいたいなと思います。

○町長（齋藤文彦君） 今、同じような牛原山の計画も進んでいますけれども、やっぱり頭の中でもんでもよくわかりませんので、本当にパノラマみたいにして図面にして、「こういう方向に向かって進んでいきますよ」というような形にしたいなと思っています。

○副町長（佐藤 光君） それでは、先ほど町長がご答弁くださったものを、現在、道の駅を考

える会の皆様からもご意見をいただいたというふうに聞いているものも含めまして若干補足をさせていただきたいと存じます。

道の駅花の三聖苑の整備につきましては、会の方からも直売所の拡張の関係とか、合わせまして最近いろんな旅行の形態も変わってきておりまして、ペット同伴の方が非常に増えているというようなこともございまして、ドッグランの設置をしたらどうかというようなご提案とか、合わせまして道の駅の近隣の農地も基盤整備する中で、そういった体験農園型の機能を付加したらどうだろうというような素晴らしい意見をいただいております。

そういったものを先ほど町長の答弁でもお話ししましたように、来年度の整備計画に反映できればいいかなと考えております。

合わせまして、その後、昨年11月でございますけれども、皆さんご承知のように依田邸をNPOの伊豆学研究会さんがくらしまち継承機構さんと合せて取得をされました。先般の3月6日の道の駅の祭典でも連携をいたしまして、誘客を図りまして、かなりのお客様が依田邸の方にもご訪問いただいたと聞いております。

そういったこともありましたので、新しい要素も兼ね備えました総合的な中川地区の新しい交流拠点というような考え方に基きまして来年度の整備計画策定に向けて結び付けていければと考えています。以上です。

○5番（藤井 要君） じゃあ、町長、しっかりと町民に青写真というか、そういう計画がわかるように来年度はしっかりと見せられるようにやってもらいたいと思います。

残り時間も少なくなりましたので、最後の質問に入りますけれども、地域おこし協力隊の関係でございます。先ほど町長の方の答弁にもありましたけれども、これは23年度からでしたか制度を取り入れて、24、25は採用しなかったということですよ。23年度に採用した方が今も松崎町に残っているというようなことでよろしいわけですよ。

そして、今回、いま4名いるわけですが、2人入るという予定ですが、26年ですと、26、27、28年、来年度で終わりですよ。この方たちが、なかなか町民の方は何をやっているのかということが目に見えてこない。中には、たまに出ますよね、A4版で地域おこし協力隊が何をしていますなんていうことも出ます。今回の広報にも松崎の活性化に一役なんてことで出まして、私が質問するのにいやがらせじゃないだろうけれども、こんなことを書いてきて、質問することがあまりなくなったかなということもあるんですけど、これは私に対するいやがらせじゃないですよ、町長。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。藤井君、時間延長しますか。

○5番（藤井 要君） お願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 時間を5分延長します。

○町長（齋藤文彦君） いやがらせでも何でもありません。それは1か月前に決まったことですので。

それで、私は地域おこし協力隊の皆さんは3年間の期間があるわけですがけれども、やっぱり答えは現場にあると、外に出て行けということで、3年間の助走期間のあいだに3年後に松崎町に住むための算段を考えろと言ってあります。それで、いろいろいま4人の皆さんを見ているとそれぞれ方向が決まってきたのかなと・・・。今度2名の方が来るような形になると思うんですがけれども、6人体制でうまくやっていきたいなと思っています。

それで、藤井議員が言うみたいに町民の方によくわからないというようなことを言うものですから、ぼくは、今度「とうふや」のシェアオフィスに・・・、いま地域おこし協力隊の皆さんは役場にいるわけですがけれども、シェアオフィスができますと、そこをキーステーションにして、そこに1人と。そして、これはNPOと話をしなければいけませんけれども、依田邸に1人、そして三浦小学校跡地、どこになるかわかりませんが三浦に1人と。そして岩科に1人、それで寄合所帯のようにして地域の皆さんと移住定住の皆さんが集まってきて松崎の情報交換できるような場所をぜひ作りたいなと。そして「とうふや」を中心に回していければ、町の皆さんがそれぞれに地域おこし協力隊はこういうことをやっているなと、松崎の情報が入ってきたり移住定住の皆さん方の情報が入ってくるようにしたいなと思っているところでございます。

○5番（藤井 要君） 近隣の中には、受け入れるのに対して、うちの町はこれとこれを協力隊員として求めるというところがあるんですね。今までの町というのは、なかなか何をやってください、かにをやってくださいというのがあやふやな松崎町だったと思っているんですよ。例えば、かつお節を作ってください。わさびを作ってください。だったら、私の町でも引き受けますよと、そして3年後にもこの商売をあなたたちが定住する生業としていくために後押しもしますよと、そういうことを言っている町もあるわけですね。

今の松崎、ちょっと方向性が見えてきたのかなということを言いましたけれども、遅かったと思いますよ。遅くてもまだ1年ある人もいるし、2年ある人もいますので、そこはしっかり松崎町で応援してもらいたい。

そして、私が思っているのは、桜葉にしてもそうですけれども、休耕地がありますよね、ああいうところで協力隊員が協力し合って、桜葉の町ですので、じゃあ、そこを耕して協力隊員

がそこに桜葉を植えてやりましょうよと、そして、例えば、抜けていったりとか、それがうまくいってきたら、今度は就農で新しく来た人にここをその人たちに引き継いでもらいましょうよと、そういうこともできると思うんですよ。桜葉だけではなく、わさびもそうかもしれません。うまくいけば、陸であわびとかの養殖だってできるわけですよ。今あれが全然ないじゃないですか、漁業に対する援助ということがなかなか・・・。そういうことだって三浦のプールを使ったりとか、そういうことができると思うんですよ。そういうのを協力隊員の人たちにやってもらおうとか、そういうことをやっぱり考えた中で、定着してもらわなければ、これはなんにもならないわけですよ。3年後にまた新しい人が来た、出て行った、その繰り返しでは何も松崎町は人口も増えていかないと思うんですよ。

そういう意味で、町長、やっぱり松崎はこれとこれをやらせる・・・、先ほど依田邸そしてどこかのところに常駐させるということも言いましたけれども、農業とか、そういう産業面で生業として食っていく、あそこに、依田邸に入っても3年後にはあそこのところで従業員として雇って・・・、食っていくことはできないと思うんですよ。そういう面でどうですか。

○町長（齋藤文彦君） 私はそこに寄合所帯みたいなやつを作りたいもので置いておくということで、地域おこし協力隊の皆さんは私の家族だと思っていますので、絶対3年後には松崎町に住ませるようにぼくは努力していきたいなと思っています。

ただ、いろいろ3年間の助走期間のあいだにいろいろ地域の皆さん方と話をしていて、松崎に生きのびるためにはこれしかないなというのがそれぞれ見えてきたように思います。

それで、桜葉とかしいたけとかかんきつ類というのにやろうというような心構えが出てきたので、それぞれでいいのかなと・・・。ただ地域おこし協力隊をお願いするときに、これとこれをやってくれ、これとこれをやってくれということを・・・、なかなか人が集まらないです。本当にそれを・・・、やっぱり協力隊員の方を見てくると、本当の我われがこれをやりたいというのがなかなか凡庸なところがあって見えないところがありまして、そういうちゃんと見える人はいいんですけれども、本当に3年間のあいだに何か考えましょうという人が多いので、そのような形の中から松崎町で生き残るためにこうして、これをやったら生き残れるというような形が見えてきているのが一番強いのかなと思っていますのでございます。

○議長（稲葉昭宏君） 藤井君、時間がないですので、まとめてください。

○5番（藤井 要君） 時間ということで、町長、本当に役場の方、私らもそうですけれども、やっぱり定住してもらうためにバックアップするところはしてもらう、その職員の方もやっぱりあいまいな関係で、年間260万円くらいですか、それがもらえる、それをもらった後はまた



違うところへという考えがないように、やっぱりしっかりとやってもらいたいと思います。

最後に、県から副町長の佐藤光さんが来たことは、町民にとっても大いに刺激になったと感じています。住民パワーを引き出して町の活性化のためにご尽力いただいたことに感謝いたしまして、私の一般質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） 協力隊員もやっぱりそれなりのお金をもらっているわけですから、成果を出せということでやっていますので。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で藤井要君の一般質問は終わります。

暫時休憩します。

（午前10時52分）

---